

まちづくり交付金 事後評価シート

ふく すみ
福住地区

平成19年2月

ひょうご ささやま
兵庫県篠山市

様式2 - 1 評価結果のまとめ

都道府県名	兵庫県	市町村名	篠山市	地区名	福住地区
計画期間	平成16年度 ~ 平成18年度	まちづくり交付金交付期間	平成16年度 ~ 平成18年度		
モニタリング実施時期	-	事後評価実施時期	平成18年度	フォローアップ実施時期	

1) 事業の実施状況	当初計画どおり実施した事業	公営住宅整備 / 福住本陣団地20戸 まちづくり活動推進事業(普及啓発・情報収集提供活動) / まちづくり協議会立上げ、景観啓発パンフレット作成
	当初計画から変更した事業 (変更した内容)	地域生活基盤施設 / 情報案内板(3箇所 2箇所) まちづくり活動推進事業(景観形成補助事業) / 事業費(百万円 0円)
	変更した理由、目標・数値指標への影響等	・情報案内板の設置箇所等について、まちづくり勉強会で協議した結果、区域内箇所数に変更が生じたため。(目標・数値指標への影響は無し) ・景観形成補助事業について、実施(歴史的景観形成地区指定)を見送り。(目標・数値指標への影響は無し)

2) 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況	指標		達成度			達成見込みの有無		効果発現要因
	指標	単位	モニタリング	事後評価	フォローアップ	あり	なし	総合所見
指標1	景観形成事業活用率	%		×				事業の活用にあたっては、地域住民の理解と協力が必要であるが、まちづくり協議会立上げ支援に時間を要したため、事業の遅延により未達成となった。
指標2	来訪者数	人		×				即効性が期待できる対外的イベントの実施には至らなかったこと、並びに情報案内板の整備の遅れが影響した。
指標3	高齢化率	%						自然動態による総人口が予測以上に減少したことが要因であるが、団地建設により進行し続ける高齢化率に歯止めをかけ、地域人口及び若年層人口の増加に大きく貢献した。

3) その他の数値指標 (当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値		数値			効果発現要因
	その他の数値指標	単位	基準年度	モニタリング	事後評価	フォローアップ	総合所見	
その他の数値指標1	まちづくり勉強会参加者数 【指標1: 景観形成事業活用率の代替】	人 / 延	0	H16		189		まちづくり協議会設立に向けた勉強会を開催し、継続して参加いただいたことで、まちの良いところが再認識され、まちに対する誇りやまちづくりへの取り組みの熟意が生まれた。
その他の数値指標2	まち歩き参加者数 【指標2: 来訪者数の代替】	人	0	H16		132		地区内の豊富な文化財等を巡るまち歩きは、地域住民間の“人と人のふれあい”に効果があり、まちづくりへの取り組みの基礎づくりにつながった。

4) 定量的に表現できない定性的な効果発現状況
 まちづくり勉強会を継続して開催することで、行政と住民との間の信頼関係が築かれ積極的な発言が多くなるようになり、参加者のまちづくりに対する意欲が大きく向上し、「まちづくりは、地域に住む人たちの手によって進めるもの」という意識が表れてきた。

5) 実施過程の評価	評価項目	実施内容	実施状況			今後の対応方針等
	モニタリング		予定どおり実施できた	予定していなかったが実施した	予定したが実施しなかった・できなかった	
	住民参加プロセス	「まちづくり勉強会」の実施	予定どおり実施できた	予定していなかったが実施した	予定したが実施しなかった・できなかった	住民主体の「まちづくり協議会」組織に移行。
		福住地区の「まち歩き」を実施	予定どおり実施できた	予定していなかったが実施した	予定したが実施しなかった・できなかった	事業を拡大して継続していきたい。
			予定どおり実施できた	予定していなかったが実施した	予定したが実施しなかった・できなかった	
	予定どおり実施できた		予定していなかったが実施した	予定したが実施しなかった・できなかった		
	持続的なまちづくり	まちづくり協議会の設立	予定どおり構築できた	予定していなかったが構築した	予定したが構築しなかった・できなかった	協議会を活用したまちづくりの推進、維持・継続に注力する。
			予定どおり構築できた	予定していなかったが構築した	予定したが構築しなかった・できなかった	
予定どおり構築できた			予定していなかったが構築した	予定したが構築しなかった・できなかった		

様式2 - 2 まちづくり交付金の成果及び今後のまちづくり

福住地区(兵庫県篠山市) まちづくり交付金の成果概要				
まちづくりの目標	住みたいまち 福住の創生	まちづくり交付金の代表的成果	高齢化率 (単位: %)	39.6(H11) 41.4(H16) 40.8(H18)
			まちづくり勉強会参加者数(単位: 人/延)	(H11) 0 (H16) 189(H18)
			まち歩き参加者数 (単位: 人)	(H11) 0 (H16) 132(H18)
基幹事業(公営住宅等整備) 福住本陣団地20戸建設 		提案事業(まちづくり活動推進事業) ・まちづくり協議会立上げ支援(勉強会) ・地域まち歩きイベント実施 ・景観啓発パンフレット作成 まちづくり勉強会の様子 		
基幹事業(地域生活基盤施設) 情報板2基 設置イメージ 		まちづくり勉強会の様子 		
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)		<ul style="list-style-type: none"> ・住民交流の活性化 まちづくりを進めていくためには、より多くの住民が「まちづくり」に関心をもち多様な方法で参加することが必要である。様々な「まちの宝」を多くの住民に伝え、情報を深めていくこと、またそれを進める過程で得られる住民間のつながりを強めていくことが、まちの活力を向上させる。 今後は、新たに設置した住民主体の「まちづくり協議会」を活用した事業展開を進めることにより、より多くの地域住民の交流を図りたい。まちの歴史的景観を保存・再生するための景観形成手法(伝統的建造物群保存地区指定、歴史的景観形成地区指定等)について検討し、香り高い文化にあふれた誇りのもてるまちづくりを目指したい。 また、公営住宅整備における若年世帯優先入居募集により、若年層の増加に貢献したが、今後は「定住化」及び「住民交流」を図りたい。 ・まちの交流人口の増加 地区内の「福の里」産直販売所を来訪者との交流につなげ、積極的な交流イベントに拡大していくため、「おもてなしイベント」などを実施し、交流人口の増加を図ることが考えられる。また、実施にあたっては、「まちづくり協議会」等を活用して企画検討体制を整えつつも、十分なPRが必要である。 		